

平成28年度 事業報告

社会福祉法人
県西福社会



平成28年度 事業報告（前文）

平成28年度を振り返って

平成28年度は、社会福祉法の大きな改正により、新たな視点にたった法人のあり方を築いていくための準備の1年となりました。

今回の改正は、社会福祉法人に対し、

- ・これまで以上の公益性、非営利性を確保すること
- ・国民に対しその存在意義について説明責任を果たすこと
- ・多様・複雑化する福祉ニーズを的確に捉え、地域社会に貢献することを求めつつ

具体的な課題として

- ・事業運営の透明性の向上
- ・経営組織のガバナンスの強化
- ・財務規律の強化
- ・地域における公益的な取り組み を掲げております。

私共は、制度改革の趣意に即し、新たな定款の制定、評議員の選任・解任委員会の設置等に着実に取り組んでまいりました。

また、足柄療護園等の施設の運営に当っては、開設から15年が経過するなかで、施設再整備3カ年計画の初年度として、「空調設備の更新」「照明のLED化」を計画に即して工事を完了させるとともに、働く障害者を支援する事業として、3年目を迎えた「ふくらん」に係って、一定の成果を挙げることができました。

総体として、堅実な歩みとなりましたが、私共の基本的な使命である障害者支援の要となる職員の確保は、厳しい雇用情勢のもとで難渋を極め、次年度に持ち越される課題となっております。

社会福祉法人県西福祉会
理事長 松本信輔

◆◇◆ 目 次 ◇◇◆

経営方針

足柄療護園・県西福祉センター・プレアデスの概要	... 1
1. 理事会・評議員会	... 2
2. 主要行事	... 3
3. 組織体制	... 4
4. 職員状況	... 5~7
5. 足柄療護園の状況	... 8~12
6. 県西福祉センターの状況	... 13~14
7. プレアデスの状況	... 15~17
8. プレアデスホームの状況	... 17
9. ふくらんの販売状況	... 18
10. ボランティア活動の状況	... 19
11. 健康管理の状況	... 20
12. 給食の状況	... 21
13. 権利擁護の状況	... 22
14. 安全管理の状況	... 23
15. コミュニティ(地域交流)の状況	... 24
16. 広報の状況	... 24
17. 渉外関係(家族会・実習生/研修生等)他	... 25
平成28年度 部門別重点実施事項実施報告	... 26~28

★経営方針

《 使命 》 職員的情熱と地域社会の支持によって
利用者安心の施設を目指します

《 基本理念 》

私達は、自らの使命を認識しながら、そこに辿り着くため、施設運営に当たっては、その基本理念を**自主・参加・安心**と定めます。私達の施設は、集団生活を避けることはできませんが、集団生活の故に発生しがちな「管理」、「画一」、「指示」、「規制」を極力、排し、利用者個々人の「自主性、主体性」を尊重し、当事者としての「参加」と「決定」を大切にしながら、家族ともども「安心感」のもてる生活の場を築きます。

自主・参加・安心

《 長期目標 》

利用者満足の実現

福祉プロ集団への進化

地域福祉の活性化

★足柄療護園・県西福祉センター・プレアデスの概要

平成29年4月1日現在

足柄療護園 (障害者支援施設)	県西福祉センター (障害者通所施設)	プレアデス (障害者通所施設)	プレアデスホーム (障害者グループホーム)
施設入所支援 60名	生活介護 30名	生活介護 15名	共同生活援助 36名
生活介護 60名	機能訓練 12名	就労B型 30名	
短期入所 6名	就労B型 15名	日中一時 15名	
	相談支援	相談支援	

◆ 沿革 ◆

平成11年 8月	社会福祉法人県西福祉会 法人認可
平成13年 4月	身体障害者療護施設足柄療護園 開設 身体障害者デイサービス県西福祉会センター 開設
平成18年10月	生活介護事業・相談支援事業 開始
平成19年 4月	自立訓練(機能訓練)事業 開始
平成20年 4月	障害者支援施設(生活介護)へ事業移行
平成20年 7月	就労継続支援B型事業 開始
平成22年 4月	プレアデス(生活介護・就労B・共同生活援助)事業開始 プレアデス日中一時事業(小田原市・南足柄市)事業開始
平成24年 4月	県西福祉センター生活介護棟開設 / プレアデス福泉事業所開設
平成24年 7月	プレアデスホーム いずみホーム開設
平成25年 4月	プレアデス福泉 製造棟開設
平成25年 7月	プレアデス福泉 「ふくらん」開設
平成26年 4月	プレアデスホーム やまさきホーム「シリウス」「リゲル」開設
平成27年 3月	プレアデスホーム やまさきホーム「カペラ」「スピカ」開設

1. 理事会・評議員会

(1) 理事会

第1回	5月20日 理事7名 監事2名	第1号議案 平成27年度 事業報告(案)について 第2号議案 平成27年度 決算報告(案)について 第3号議案 施設長等人事(案)について 第4号議案 足柄療護園 設備(空調・照明・洗濯機)の更新について 第5号議案 プレアデス・新棟の建設(案)について
第2回	9月23日 理事7名 監事2名	第1号議案 神奈川県 の監査における「文書指導」に対する改善策(案) 第2号議案 運営規程の一部改正(案)について
第3回	10月28日 理事7名 監事2名	第1号議案 平成28年度 資金収支補正予算(案)について 第2号議案 平成28年度 事業中間報告(案)について 第3号議案 平成28年度 資金収支中間報告(案)について 第4号議案 空調・照明機器の入札結果について
第4回	11月30日 理事7名 監事2名	第1号議案 定款改正(案)について 第2号議案 評議員選任・解任委員会運営細則(案)について 第3号議案 評議員選任・解任委員会の設置及び委員の選任(案)について 第4号議案 役員等報酬規程(案)について 第5号議案 新評議員候補の推薦名簿(案)について 第6号議案 施設整備3カ年計画に伴う資金調達(案)について
第5回	3月17日 理事6名 監事2名	第1号議案 平成28年度 資金収支2次補正予算(案)について 第2号議案 平成29年度 事業計画(案)について 第3号議案 平成29年度 資金収支予算(案)について 第4号議案 諸規程の改正(案)について 第5号議案 設備(浴室リフター・給湯設備)の緊急更新(案)について

(2) 評議員会

第1回	5月20日	評議員15名/監事2名	第3回	11月30日	評議員14名/監事2名
第2回	10月28日	評議員14名/監事2名	第4回	3月17日	評議員13名/監事2名

(3) 基盤整備小委員会 (生沼理事・柴田理事・守屋理事・小澤評議員・行待評議員)

第1回	5月20日	委員長選出	第4回	1月20日	防犯対策設備整備工事
第2回	9月20日	空調・照明設備の入札	第5回	2月1日	上記 業者選考について
第3回	9月28日	空調・照明設備の入札			

(4) 評議員選任・解任委員会 (加藤南社協事務局長・小林監事・田中)

社会福祉法の改正に伴い、平成29年2月8日(14時～)に、評議員選任・解任委員会を開催し、改正社会福祉法並びに新たな定款に基づき、8名の評議員の選任を行った。

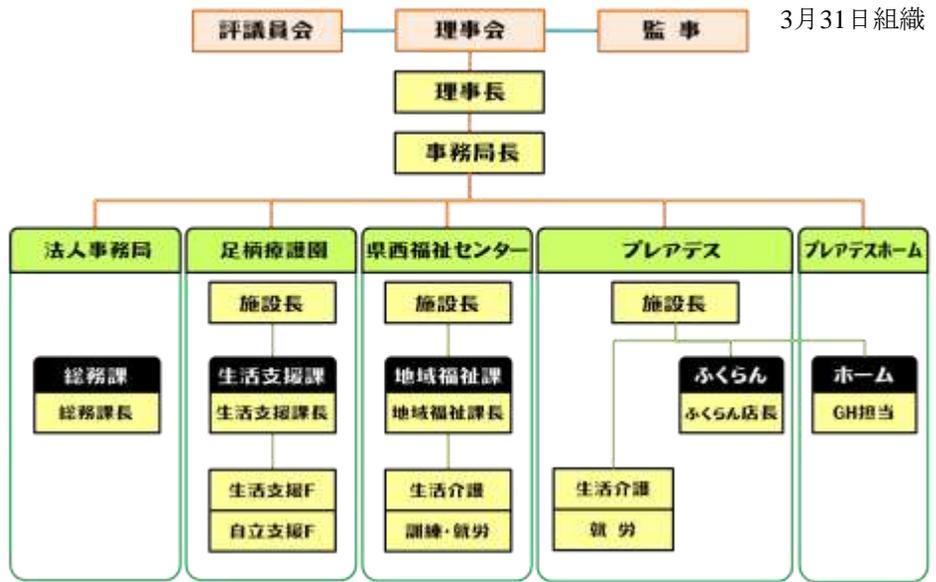
2. 主要行事

月	施設行事	法人・職員	地域・家族 他
4	施設外活動(花見)【足】【プ】 スポーツ大会【足】 バスケット公式戦観戦【足・プ】	避難訓練【プ】	下田組主催花【ホ】
5	健康診断【足・ホ】 施設外活動(新江ノ島水族館)【足】利用者 研修【プ】	健康診断 監事監査 理事会・評議員会	家族会総会【足】 ボランティア食事会【足】 高浜高校 利用者講演
6	プレアデス祭 / ボーリング外出【プ】 避難訓練【足】【プ】 カラオケ大会【足&セ】 施設外活動(新江の島水族館)【足】	プレアデス祭 職員会議 避難訓練【足&セ】	プレアデス祭 高浜高校 / 日本女子大 / 真鶴中学校 利用者講演 みんなのつどい【プ】
7	スポーツ大会【足】 / 手話発表会【セ】 卓上ゲーム大会【足&セ】 カラオケ外出【プ】 七夕行事【足】【セ】【プ】	「ふくらん」3周年	三竹・福泉・岩原・向田・駒形新宿・ グリーンヒル・沼田夏祭り出店 埼玉県狭山市社協見学【24】 小田原短大 利用者講演
8	家族交流BBQ【プ】 下田組合同BBQ【プ】 流しそうめん【足&セ&プ】 施設外活動(カラオケ / 映画)【足】		内山・矢倉沢・いずみ・生駒・関 本・和田河原夏祭り出店 駒千代観音祭出店 家族交流BBQ【プ】 下田組主催BBQ【ホ】
9	避難訓練【足&セ】 施設外活動(ヤクルト見学)【足】 県ローリングノレー大会【足&セ】 スポーツ大会【足】 カラオケ大会【足&セ】/納涼会【足】 一泊旅行(TDL)【プ】	職員会議 避難訓練【足&セ】	広町秋祭り出店 大井高校 利用者講演 川崎市父母の会見学【22】
10	秋まつり/作品コンテスト 健康診断 施設外活動(鈴廣ちくわ作り)【足】 チャレンジ遠足【プ】	理事会・評議員会 秋まつり 避難訓練【プ】	秋まつり<家族会共催> 山崎文化祭出店
11	インフルエンザ予防接種 県文化ステージ発表【足&セ】 施設外活動(紅葉)【足】【プ】 カラオケ大会【足&セ】 焼き芋会【足・セ】/パターゴルフ【プ】	評価面接 ディズニー新人研修	大井高校 実習受入 北里大学 利用者講演 三竹・関本自治会文化祭参加 狩野・沼田・和田河原・ 日向文化祭出店
12	おもつき【プ】 / 手話発表会【セ】 卓上ゲーム大会【足&セ】 クリスマス会【足】【セ】【プ】【ホ】 年末年始外出【ホ】 施設外活動(映画)【足】	職員会議 避難訓練【足&セ】【プ】	家族会・施設清掃(家族会) GH家族交流会【プ】 南足柄小学校2年生買物体験
1	成人を祝う会【プ】 文化作品展示会【足】 ゲーム・スポーツ大会【プ】	施設見学「七沢学園」	中央医療健康大学校見学 講演 高浜高校利用者講演
2	節分行事【足】【セ】【プ】 バレンタインイベント【足】 一泊旅行【プ】 県卓上競技大会【足&セ】	職員健康診断(夜勤者) 防犯設備設置工事	茅ヶ崎リハ専門学校利用者講演 ちいきふくし博【足&セ&プ】 家族会役員選出【足】
3	自分発表会【プ】 カラオケ大会【足&セ】 県ローリングノレー大会ぽつする杯 施設外活動(カラオケ / 映画)【足】	理事会・評議員会 職員会議 / 避難訓練 権利擁護研修	わくわくのりのりコンサート【プ】 県西部地区送迎避難訓練【プ】

3. 組織体制

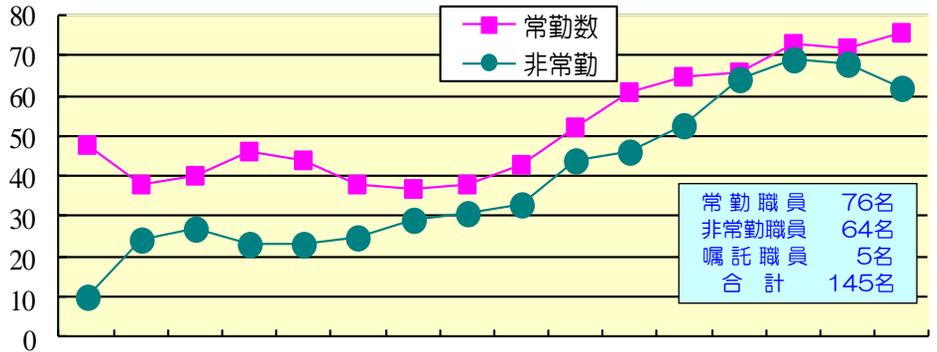
(1) 組織体制

7月に足柄療護園に新たな施設長が就任した。



(2) 職員数

年度末現在の職員総数は前年から2名増え同様145名である。常勤が増え、非常勤が減る傾向にある。



職員数の推移(3月31日現在の職員数)

(3) 職員配置

3月31日現在の各事業の配置職員は、指定基準を満たしている。

職種	足柄療護園		泉西福祉センター		プレアデス		プレアデスホーム	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
管理者	1名		1名		1名		1名	
サビ管	2名		1名		1名(兼務)		2名(兼務)	
医師		5名		1名(兼務)		1名(兼務)		
看護師	1名	11名		1名(兼務)		1名(兼務)		
生活支援員	31名	8名	11名	4名	18名(兼務)	8名	12名(兼務)	
指導員				2名		2名		
訓練担当	1名(兼務)	2名(兼務)	1名(兼務)	1名(兼務)	1名(兼務)			
世話人							11名(兼務)	14名
その他	5名	8名		2名				

3月31日現在

4. 職員状況

(1) 労働条件の改定等

10月の最低賃金改定に伴い、該当する非常勤職員の時給の改定を行った。また、平成29年度に向けてキャリアパス基準の明確化、初任給基準の引き上げ、及び継続雇用年齢を66歳に引き上げた。

(2) 職員研修

計画に基づき、階層別に施設内研修を実施した。新任研修ではディズニーランドにおいて、サービスのあり方研修(参加4名)を実施した。4月22日にスターコンサルティングG 糠谷氏によるリーダー研修(参加12名)を実施した。その他以下の研修を実施した。

①施設内研修実施状況

職員研修	テーマ	講師	対象者	参加者
4月18日	食事介助	猪川ST	新人	21
5月30日	薬の効能	わかば調剤薬局	中堅	27
6月15日	防災	奥津管理員	全体	25
7月6日	オムツのあて方	日本製紙クレシア	新人	22
8月18日	クレーム対応	日本総険	中堅	47
9月21日	感染症	感染症マスター職員	全体	43
12月14日	救命救急	山岸施設長	全体	32
3月22日	権利擁護 / 人権研修	内嶋弁護士	全体	48

②スキルアップ研修実施状況(業務時間扱い・自由参加型)

日程	テーマ	講師	参加者
10月20日	リスクの予測	白田リスク委員会委員長	30
11月17日	右麻痺/左麻痺※	猪川尚子言語聴覚士/大野誠理学療法士	29
11月29日	防犯講習/不審者対応	松田警察署	32
12月19日	個別支援計画	山岸施設長	20
1月23日	褥瘡※	足柄上病院高橋佳織皮膚排泄ケア認定看護師	30
3月30日	高次脳機能障害※	猪川尚子言語聴覚士	27

③施設外自己啓発(SDS)

日程	テーマ	場所	参加者
1月31日	神奈川総合リハビリセンター 七沢学園見学	[七沢学園]	8

◇合格お祝い金制度を活用して**社会福祉士1名**が合格した。お祝い金として、社会福祉士10万円(介護福祉士は5万円)を支給する。

④人財育成塾実施状況 参加者は指名

テーマ	対象者	日程	時間	講師
ディズニーリゾート研修(支援力向上研修) 9月17日、11月4日～5日(TDR)、2月4日	新人 4名	4日間	20時間	スターコンサルティンググループ 糠谷和弘氏
リーダーシップ研修	4級以上12名	4/22	3.5時間	〃



ディズニー研修

⑤施設外研修受講状況（33企画延べ54名参加）

内 容	参加者	主 催
介護福祉士実修指導者講習会	山岸直広	神奈川県立保健福祉大学
第40回 全身協職員研究大会〔愛知県〕	奈良場純一	全国身体障害者施設協議会
サービス管理責任者研修	山口勇人【介護】	神奈川県
相談支援従事者初任者研修	良知覚之	神奈川県
相談支援従事者現任研修	佐々木一人/大澤直樹/小林靖明	神奈川県
初任者研修〔キャリアパス〕	丹羽涼太/古屋風人/保科香織	神奈川県社会福祉協議会
中堅職員研修〔キャリアパス〕	白田晃平	神奈川県社会福祉協議会
チームリーダー研修〔キャリアパス〕	良知覚之/宮崎健	神奈川県社会福祉協議会
痰の吸引等医療的ケア研修(特定者)	森本美由紀/保科香織	フュージョンコムかながわ
社会福祉法人制度改革対応セミナー	柴田和生	神奈川県社会福祉協議会
新任職員人権研修	山口幸治/古屋倫子/羽村蛍夏/松橋仁江	神奈川県知的団体連合会

※その他、経営協、神奈川県社協、身障協、身療協等の研修へ参加

(3) 会議・委員会

年間日程に基づき計画的に会議を開催した。

各委員会の活動を通じ、**リーダーシップの発揮**をはじめとした、職員的能力開発と**組織運営への参加**をはかった。

名 称	内 容	開催数	メンバー
職員会議	施設運営及び職員に係る事項について提起し、職員間の意思疎通をはかる	4回	全職員
運営会議	施設運営及び職員に係る事項について検討し、組織の一体化を推進する	12回	理事長、事務局長、部長、施設長課長、店長、医務課リーダー
わくわく委員会 (日中活動)	クラブ活動や外出支援等、日中活動の企画・検討を行い、充実した日中活動を目指す	6回	◎柘植、阿部、月村、持丸、藤田、露木(翼)、神羽、北、(石川)
いきいき委員会 (生活向上)	利用者自らが自立した生活を実現するための能力を身に付けていく視点で検討する	6回	◎奈良場、竹内、府川、佐藤、菅沼、保科、猪川、(山口)
さくさく委員会 (業務改善)	業務の効率化を実現し、職員の負担を軽減し、より充実した利用者支援につなげる	6回	◎宮崎、奥津、露木(奈)、迫田、岸、(山岸、石川、山口)
リスクマネジメント 委員会	利用者が生活を送る上での安全安心確保と介護事故の防止をはかる。権利擁護の推進をはかる。	6回	◎白田、佐々木、石川、山口、奥津、良知、増田、阿部達、P三川、(山岸、平田)
ボランティア 委員会	ボランティア受入及び教育、対応にかかわることについて検討する	12回	◎月村、阿部(礼)、山岸(里)、岸、神羽、K宮内、P早野、土屋
研修委員会	職員の研修にかかわること、研修会の企画・開催について検討する	6回	◎鈴木(匠)、増田、良知、宮崎、吉田、猪川、K太田、P古沢、大熊
衛生委員会	労働災害及び疾病の防止対策を行い、快適な作業環境の実現を促進する	12回	◎藤田、山岸、野村Dr.、竹内、柘植、菅沼、森本、七海、嘉山、根本
広報委員会	広報誌『やまぶさ』の編集・発行を行う。広報にかかわることについて検討する	4回	◎後藤、五味、鈴木(匠)、白田、P樽澤、土屋
短期入所受入 検討会議	短期入所利用者情報の共有と受入にかかわる業務等の調整を行う	12回	◎増田、山岸、石川、山口、大澤、根本、(佐々木)
食のあり方 検討委員会	ソフト食の提供にかかわる課題の整理や食事観察の必要な方の支援の仕組みづくりを行う	6回	◎猪川、石川、山口、K生田目、P樽澤、(平田、山岸、佐々木、NS)(日清)

(4) 外部への活動報告

全国社会福祉法人経営者協議会主催の「**地域における公益的な取組の実践発表会**」において、『利用者講演活動』の実践報告を行った。また、**神奈川県障害福祉職員実践報告会**で『**ふくらんの取り組み**』について報告した。



(5) 委員会活動報告

委員会名	委員長	年度実施報告
わくわく (日中活動) 委員会	柘植 	季節感を感じられるイベントや食のイベントの検討、施設外活動の検討をテーマに取り組んだ。 新企画として9月の夕食後に「納涼会」を開催し、季節遅れの夏祭りやアイスクリームを楽しむなど、 8回 のイベントを実施した。 施設外活動では、新たな外出先として 商業施設ららぽーと などを企画した。
いきいき (生活向上) 委員会	奈良場 	ぶらりランチ は再開することができ、登録者も新たに4名が増加し 7名 となった。年間、8回実施し15名の方が利用した。行き先の検討を行ったが、和食・刺身・寿司の要望が多数で新たな開拓には至らなかった。 作品展示に関して、家族の方が遠方でも手軽に閲覧できる様に facebook での投稿を検討し、県西福祉会のページに定期的にアップを開始した。
さくさく (業務改善) 委員会	宮崎 	iPadを導入し、システム入力への移行を進めた。合わせて個別支援計画に関するケース記録についてもシステムへ入力に統一したことにより、記録の管理や過去の記録の確認が容易となった。 オムツ類の利用状況を分析し、経費削減を目指しアイテム変更を行い、年間で85万円の削減を見込むことができた。
リスク マネジメント 委員会	白田 	プレアデスも含め成年後見制度の利用促進に向け取り組みを行った。 リスクマネジメント報告、ヒヤットと共有書の内容共有と対策の検討を行った。 身体拘束及び行動制限に関する事項の検討、及び解除に向けた取り組みを行ったが、18名25項目の実施である。 その他、人権チェックアンケートの実施について取り組んだ。
ボランティア 委員会	月村 	ボランティア活動数、延べ1550名を目指しが、 1317名 の実績であった。 年間活動計画のイベント等に合わせて、学校と連絡を密にして学生の活動誘致を試みたが、前年の半数程度の 62名 に留まった。 プレアデスでは目標500に対し 254名 であった。 5月に親睦を兼ねた 食事会 を立食形式で開催し43名が参加した。
研修委員会	鈴木 	年間の研修計画に基づき、研修内容の検討や講師依頼、事前準備を行った。 年間14回開催したうちの一部の研修(3回)について、地域に対し情報提供を行い、 オープンセミナー として開催し8名が参加した。 昨年同様、感染症の研修は感染症マスターの職員が講師を務め好評を得た。 また、リスク予測の研修についてはリスク委員会と連携し 職員講師 で開催した。
衛生委員会	藤田 	職場の定期巡回を通じて、職場環境のチェック、改善に取り組んだ。 労働衛生及び衛生管理の情報を収集し、必要に応じた検証をおこなった。 感染症予防を目的として職員の健康状態を把握する「職員衛生管理記録簿」について、記載・管理方法を整理し、委員会で対応する方法とした。 各部署単位で嘔吐物処理実習を実施し、処理方法の共有と徹底を行った。
広報委員会	後藤 	『やまぶき』を季節ごと年4回発行した。 利用者・ご家族、関係機関等へ約 650部 を印刷し配布した。 事業内容が多岐にわたり、また活動内容も多く、やまぶきの記事内容について充実したものになってきたと感じている。 毎年恒例となった 施設内写真販売 を実施した。

(6) 労働衛生

5月12日に職員123名に対し健康診断を実施し、所見のある職員(**21名**)に対し、医師による個別指導を行った。夜勤従事者は2月に嘱託医師による健康診断を実施した。また、足柄療護園、県西福祉センター職員47名に対して**ストレスチェック**を実施した。衛生委員会において、施設内の巡回チェックシートにより職員労働環境の定期確認を実施した。

5. 足柄療護園の状況

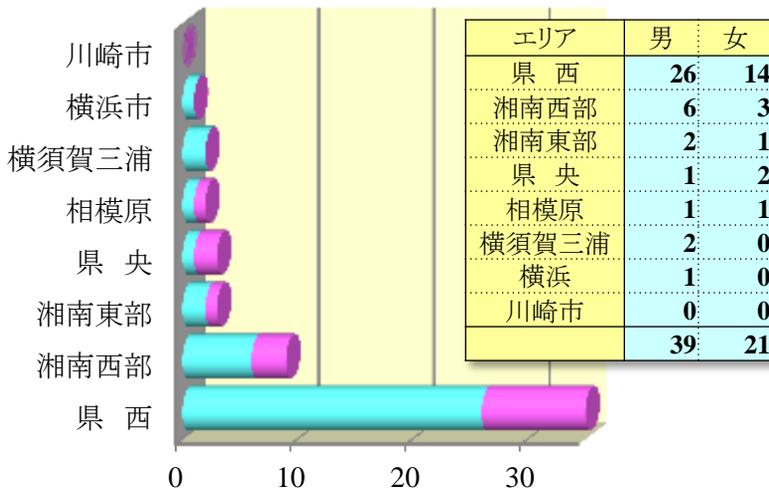
(1) 施設入所支援

病院搬送後容態が回復せず亡くなられた方と、高齢者施設へ移行した方2名が退所し、ミドルステイをしていた方2名が間もなく入所した。入院日数が延べ546日と多かった。

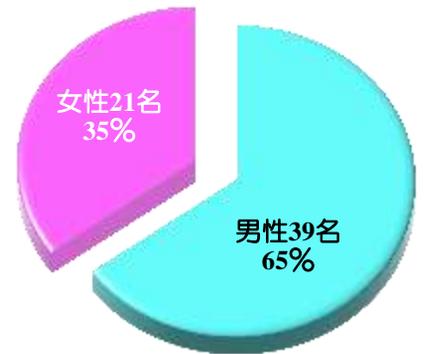
障害支援区分の見直しなどにより区分5、6の方が100%となり、平均区分は5.73となった。

① 利用者の状況 (年度末現在;入所者数60名)

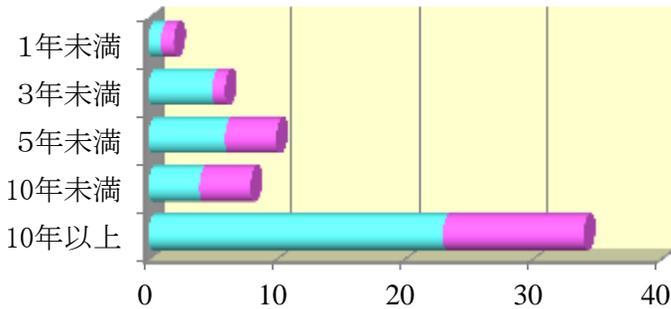
A.地域別入所者数: 県西地区が40名(67%)を占める。



男性が39名(65%)である。

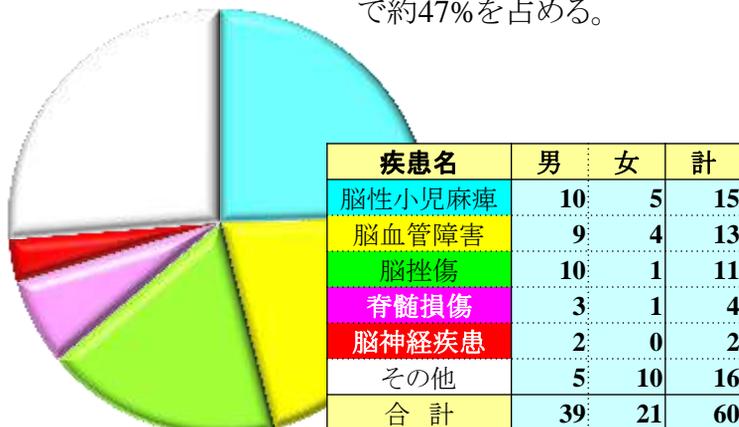


B.在所期間: 10年を超えた方は32名で53%。



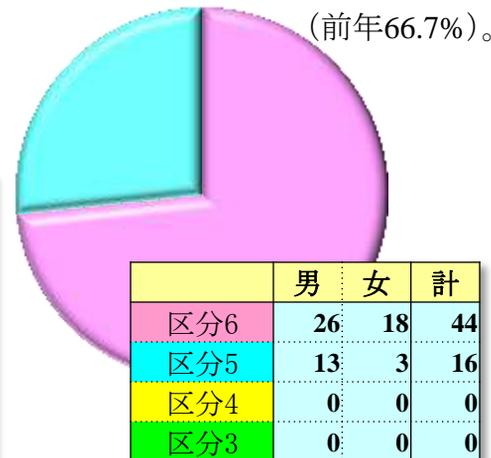
	男	女	計
1年未満	1	1	2
3年未満	5	1	6
5年未満	6	4	10
10年未満	4	4	8
10年以上	23	11	34

C.疾患別原因: 脳性マヒ・脳血管障害の方で約47%を占める。

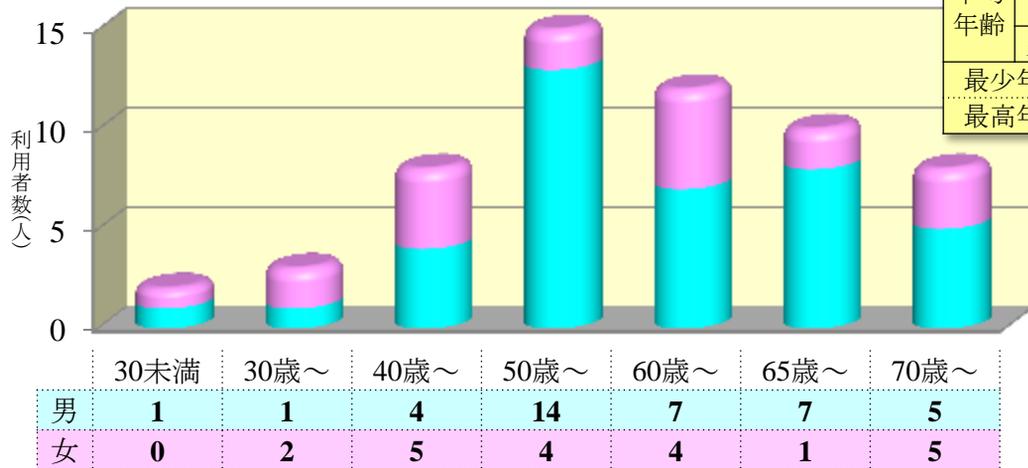


D.障害支援区分: 区分6 が73.3%

(前年66.7%)。



E.年齢別：平均年齢は57歳。70歳以上は初めて10名を超えた。



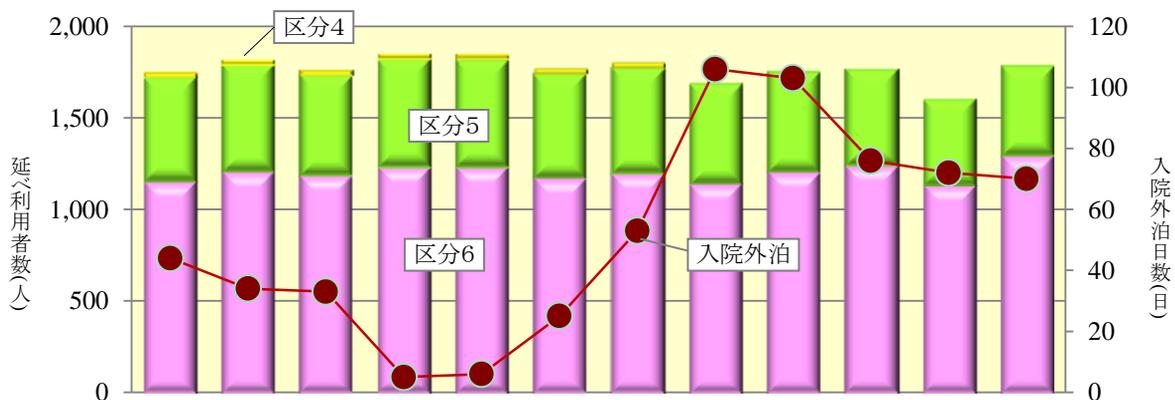
平均年齢	男	58歳3ヶ月
	女	56歳9ヶ月
	男女	57歳9ヶ月
最少年齢		23歳5ヶ月
最高年齢		77歳8ヶ月

②個別支援

サブリーダーを中心に4グループで検討し、グループ内の中堅職員がフォロー役となり、ケース担当が中心となって、アセスメントサポートプラン(個別支援計画書)に基づいた支援を行った。個別支援にかかわるケース記録について、全職員が記録システム「ほのぼの」への記載に移行し、活動や訓練の記録と連動できるようになった。また、日中活動担当と連携し、外部の大会や作品作りなどを行えるように支援を行った。

③利用状況

入院者がいない月が2月あったものの、入院日数が100日を超える方が3名おり、延べ546日の入院数となった。外泊数を足した入院外泊数は627日で前年の692日を若干下回った。定員に対する稼働率は97.1%であった。



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年
区分6	1,156	1,209	1,190	1,236	1,234	1,175	1,201	1,143	1,207	1,244	1,134	1,296	14,425	14,511
区分5	570	586	547	588	589	570	575	550	550	525	474	494	6,618	5,286
区分4	30	31	30	31	31	30	31	0	0	0	0	0	214	1,276
区分3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1,756	1,826	1,767	1,855	1,854	1,775	1,807	1,693	1,757	1,769	1,608	1,790	21,257	21,073
入院外泊	44	34	33	5	6	25	53	106	103	76	72	70	627	692

(2) 短期入所の状況 定員6名

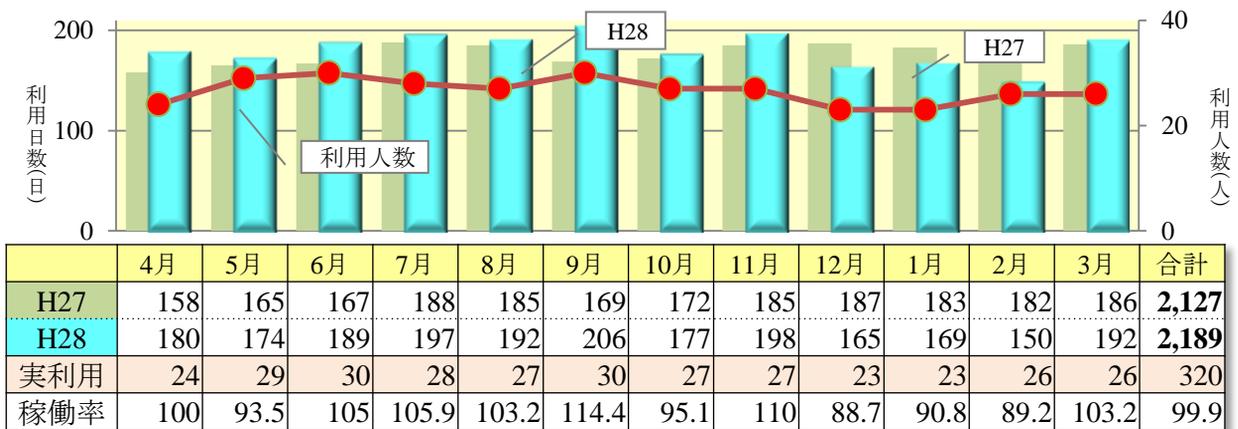
短期入所利用の希望が高く、入所者の空床も利用し、登録者**63名**(前年53名)に対し、実利用**45名**(前年39名)年間**延べ2189日**(前年2127日)のサービス提供を行った。ミドルステイを利用する3名も含め、**平均ベッド稼働率は99.9%(前年96.9%)**であった。

ミドルステイを利用していた方のうち、2名が足柄療護園への入所利用に切り替わった。12月～2月は体調崩す方が多く、予約日直前にキャンセルとなるケースが多くあった。

毎月「短期入所受け入れ検討会議」を開催し、利用者の情報共有を行なっている。

①利用者の状況(3.31現在)

A.利用実績:ベッド稼働率は99.9%(前年96.9%)で、延べ利用日数は2189日であった。

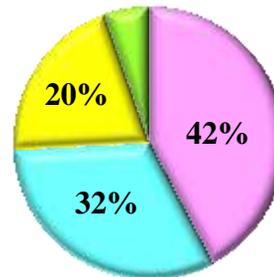


B. 域別利用状況:小田原市が5割を占める。



C. 障害支援区分別

区分5と6で約74%を占める
平均障害支援区分は5.11
(前年5.10)



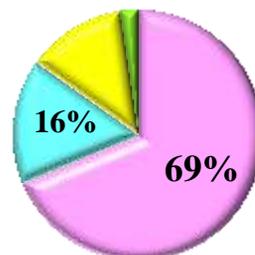
	日数
区分6	924
区分5	700
区分4	447
区分3	118
区分2	0

障害支援区分(利用日数)

②地域拠点事業所配置事業の状況

地域拠点事業所配置事業「あんしんネット」の県からの受託は7年目となり、**27名**(前年28名)の登録、実利用**15名**の方に対し**延べ169名608日**(前年145名481日)のサービス提供を行った。

支援が困難なケースや緊急時の受入れ対応ができるよう各機関と連携をはかるとともに、各スタッフとの連携もスムーズに行えた。また、派遣看護師から夜間専属看護師への切り替えを順調に行うことができた。



	日数
区分6	418
区分5	98
区分4	78
区分3	14
区分2	0

障害支援区分(利用日数)
※上記内数

(3) 活動支援の状況

① クラブ活動

レクダンスが指導者の都合により休止となったが、12のクラブ活動等で、211回(前年199回)、延べ3,361名(前年3,574名)の参加数となった。地元の“いずみ地域福祉会”に支えられており、年間延べ409名のボランティア数となっている。

カラオケ大会や卓上大会、スポーツ大会、作品コンテストの開催を通じ、通所利用者と入所者との交流を深める機会を作るとともに、日常の活動への意欲的な参加につなげた。

クラブ名	回数	参加	平均
スポーツクラブ	16	444	27.8
音楽クラブ	6	162	27.0
創作クラブ	12	303	25.3
華道クラブ	6	144	24.0
卓上クラブ	20	453	22.7
カーレット	5	101	20.2
カラオケクラブ	50	911	18.2
陶芸クラブ	5	32	6.4
園芸クラブ	20	39	2.0
ローリングハレー	16	320	20.0
パソコン	44	365	8.3
ネイルアート	11	87	7.9
合計	211	3,361	15.9

クラブ活動実績

カラオケ大会	
6月23日	参加12名/観客27名
9月6日	参加12名/観客33名
11月16日	参加11名/観客30名
3月8日	参加 9名/観客33名
卓上ゲーム大会	
7月21日	参加27名
12月22日	参加23名
スポーツ大会	
4月28日	ボーリング 参加40名
7月27日	ゴロ卓球 参加37名
9月29日	運動会 参加44名
2月16日	カーレット 参加32名
作品コンテスト	
10月12日	71名171作品
～16日	230名の投票により選考

各大会実績



② イベント・余暇活動 (アクティビティ)

法人全体で取り組む「秋まつり」は、10月第3日曜日に開催し、650名を超える人々で賑わい、地域との交流を深める機会となった。

月	イベント	参加数
5月	DVD鑑賞	31
7月	アイスクリーム 〔七夕会〕	57
8月	流しそうめん	54
8月	かき氷	50
9月	納涼会	55
11月	焼き芋会	67
11月	そば打ち	29
2月	エアロビ体操 〔節分会〕	39
2月	チョコフォンデュ 〔バレンタイン〕	47
3月	桜もち	52

季節のイベントは、わくわく委員会を中心に企画している。9月のイベントとして夕食後より「納涼会」を実施し好評を得た。イベント開催は10企画、参加者は481名であった。

また、日中活動担当により、パウダーアートやビーズなどのアクティビティを年間4企画、53回延べ114名に対して行った。



流しそうめん



納涼会

③ 買物外出・施設外活動

長時間の買物外出の実施や施設外活動を実施した。基本的に
 一対一の支援が必要であるが、南足柄市社協ボランティアやご家族、
 延べ14名の協力を得ながら実施した。小グループに分かれて
 の外出で年間42ルート(前年41)で113名(前年114名)の方が出かけた。

外出先	回数	人数	外出先	回数	人数
すたみな太郎(ランチ)	9	20	ヤクルト工場見学	1	2
カラオケボックス	2	8	ちくわ作り(鈴廣)	1	2
新江ノ島水族館	2	7	紅葉見学	1	2
映画鑑賞	3	6	買物外出		
プレアデス祭	1	4			
バスケット観戦	1	3	シティーモール	14回/39名	
ステーキガスト(ランチ)	1	3	イトーヨーカ堂	3回/7名	
ビックボーイ(ランチ)	1	3	ららぽーと海老名	1回/3名	
お花見	1	3	ららぽーと平塚	1回/4名	



新江ノ島水族館



プロバスケット公式戦観戦

④ 施設外大会・発表会への参加

例年通り、神奈川県身体障害者施設協議会主催の県大会に参加した。

9月26日	第27回 神奈川県ローリングバレーボール大会	入所 7名 通所 6名	Aブロック 1回戦敗戦 / 2回戦敗戦
11月26日	第22回 身障施設 文化ステージ発表会	入所 6名 通所 0名	タイトル「ARStars カーニバル」ラテン音楽の歌と演奏
1月22日	第21回 身障施設 利用者作品展示会	----	30作品
2月4日	第49回 身障施設対抗卓上競技大会	入所 2名 通所 3名	はさみ将棋の部 吉田氏 敢闘賞
3月11日	第18回 ローリングバレーボール大会[ぱっする杯]	入所 4名 通所 4名	5位

⑤ “ぶらり外出” “ぶらりランチ”

人気の企画である“ぶらりランチ”について、南足柄市社協の有償支援「えぶろん」の協力を得て再開することができた。8回開催し、実利用7名延べ15名が、「ふじ丸」や「はま寿司」に出かけた。“ぶらり外出”は再開に向け調整中だが、個人でタクシーを依頼したり、有償サービスを利用して外出される方も多くなっている。

⑥ 飲酒・喫煙

毎週、金曜日の夕食後に飲酒希望者を対象に喫茶コーナーにて飲酒サービスを実施している。6名(前年8名)の飲酒希望のうち定期的に飲酒されている方は5名である。利用者の喫煙は喫煙所にて可能で、受動喫煙防止条例に準拠した対応となっている。

⑦ メイクボラ

厚木マルベリーライオンズのクラブのご協力で、フェイスエステとメイクのボランティアが実現した。



メイクボラ

7. 県西福祉センター(生活介護・自立訓練・就労継続・相談)の状況

定着してきた第四土曜日の食事イベントを担当グループ制にしたことで、様々なアイデアがでるようになり好評で参加人数が増えた。また、外出の企画も新たに行った。年間利用人数10,300名の目標をかかげ運営し、前年7.8%増の10,142名(前年9,411名)となり、目標には到達しなかったものの初めて1万人を超えた。1日平均は32.8名(前年度30.4名)の実績であった。

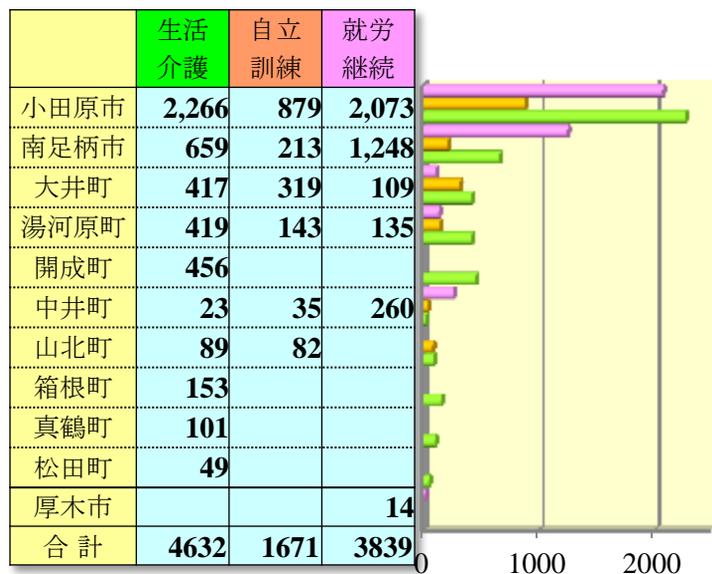
【生活介護事業】 ❖ 毎月のイベントや創作活動が定着してきた。入浴においては業務改善や一部午後の入浴にするなど、より多く受入れ可能な体制を整えた。延べ利用人数は6.8%増の4,632名で(前年4,339名)、1日平均15.0名(前年14.0名)であった。

【機能訓練事業】 ❖ 個々の訓練プログラムに沿った計画的な機能訓練やグループ体操を行った。また、機能訓練の期間満了後を見据えた支援を実施した。延べ利用人数は▲2.5%の1,671名(前年1,713名)、1日平均5.4名(前年5.5名)であった。

【就労継続支援B型事業】 ❖ 新たな取引先を開拓するなど、個々の能力に応じた作業提供を行った。自立訓練(機能訓練)終了後に移行する方が多く、結果延べ利用人数14.3%増の3,839名(前年3,359名)、1日平均12.4名(前年10.8名)であった。

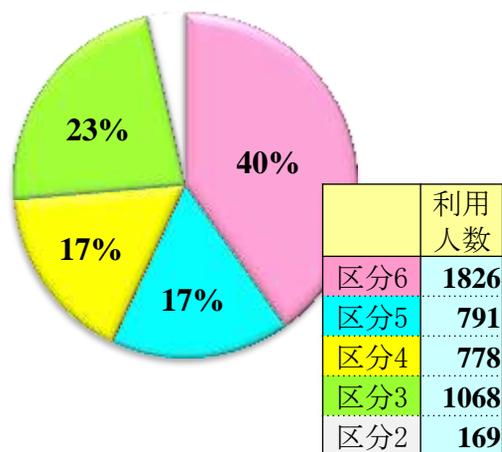
(1) 利用者の状況(3.31現在) 定員(生活介護30名/自立訓練12名/就労継続15名)

①地域別利用者延べ数(小田原市51%、南足柄市21%)

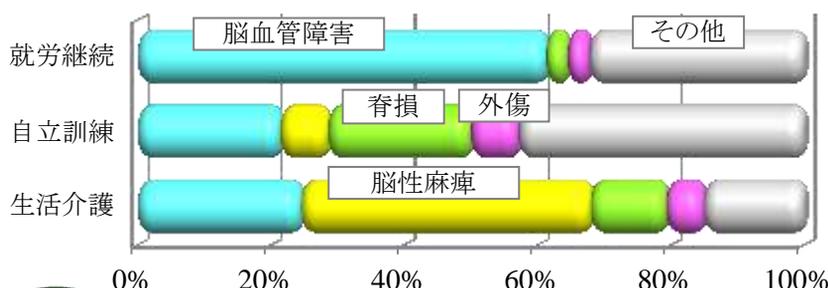


②生活介護利用者障害支援区分

平均障害支援区分 4.7(前年4.6)



③疾患別原因:障害の原因が多岐にわたっている



	生活介護	自立訓練	就労継続
脳血管障害	13	3	19
脳性麻痺	23	1	
脊髄損傷	6	3	1
頭部外傷	3	1	1
その他	8	6	10
合計	53	14	31

(2) 利用状況

年間利用人数は初めて1万人を超え、前年の518名増を更に上回る731名の増となった。全体的に中途障害の方が増えており、75%以上を占める。生活介護では平均障害支援区分5と6の割合が全体56%と半数を超える。事業ごとの特徴を生かしたサービス提供に徹底した。



(3) 利用者工賃の支給状況

就労B型の登録者は**31名**(前年末29名)となった。新たな受注先も確保でき切れ目なく作業提供ができたが、大口の受注がなく、作業工賃の月平均は**974円減**の**3,503円**(前年4,477円)となった。時給換算では109円と前年の134円を25円下回った。

(4) 日中活動の状況

生活介護では絵本の読み聞かせの毎月開催を開始した。手話や歌のサークルの活動は定着している。また、毎月開催の食のイベントでは3事業所の利用者の交流をはかった。

日	人数	活動名	回数	参加	平均
4/23	32	和食バイキング			
5/28	34	バーベキュー			
6/4	32	プレアデス祭			
7/23	34	洋食バイキング			
8/27	34	屋台メニュー			
9/17	33	海鮮BBQ			
10/29	33	中華バイキング			
11/19	33	蕎麦打ち			
12/24	26	クリスマス会			
1/28	37	らーめんフェスタ			
2/25	34	おでん			
3/25	40	握り寿司			

食のイベント開催状況

活動実績

(5) 相談支援事業

新規利用相談は、入浴と機能訓練の相談が多い。相談は相談支援事業所からが最も多く、次いで病院からの問い合わせが多い。地域別では小田原市からの相談が4分の3を占める。サービス利用計画作成は、全体で63名、内訳は足柄療護園入所者51名、在宅サービス利用者12名である。

生活介護相談	7件
訓練相談	6件
就労継続相談	3件
入所相談	件
短期入所相談	件

8. プレアデス(生活介護・就労継続・日中一時・相談)の状況

送迎希望に応えるため、送迎方法やルートを見直し、より利用しやすく改善した。生活介護及び就労B型の年間利用者数は前年対比4.8%減の12,264名(前年12,885名)、1日平均33.6名(前年度35.2名)の実績であった。登録者数は年度末で63名(前年度末61名)である。生活介護の利用者の障害支援区分は平均で5.44(前年5.27)とさらに重度となった一方、日中の過ごし方の体制を整え活動の安定をはかった。就労B型では、新たな受注を開拓し、途切れることなく作業を行うことができるようになった。ボランティアは、行事への協力、ふくらんの製造や販売の協力などで年間254名(うち家族104名)(前年238名)となった。

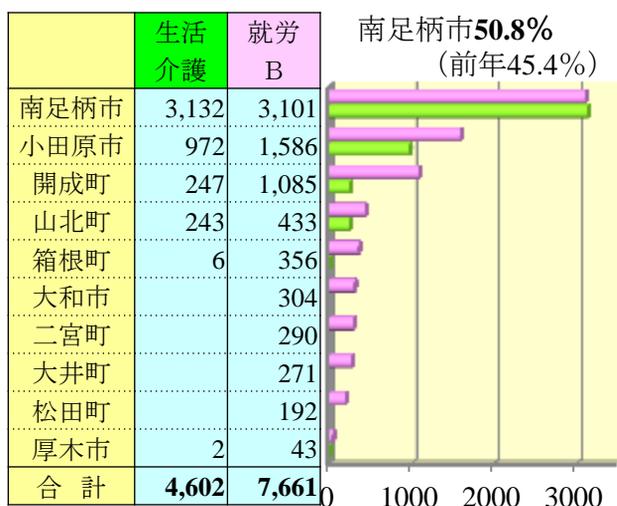
【生活介護事業】 ❖大きく3つのグループに分け支援を行った。卵パック作業を取り入れるに当たり、自閉傾向の方も集中して作業ができるように個室の整備を行った。初めは9名の方から試験的に開始し、3月末には12名の方が日課として作業を行えるようになった。卵パック作業が難しい方には、環境設定を行い試作しているペーパーログ(リサイクル燃料)作りを開始し、5名の方が取り組むことができた。どちらの作業も難しい最重度の方には、余暇活動グループとして集団での活動を楽しむことができるよう支援を行った。

【就労継続支援B型事業】 ❖養護学校卒業生を1名受入れ、登録者37名でスタートし3月末で38名となった。南海工業から新たな作業を受注し、CDやDVD等の解体分別作業、卵パックの切り取り仕分け作業を開始した。これらは、多くの利用者が取り組める作業で、かつ納期がないことから、一時的に発生していた作業が途切れるような事態を回避できるようになった。また、施設外就労では三施設合同による共同受注作業を南足柄市より頂き4名の利用者が作業に従事した。新たな作業開拓の効果もあり、利用者工賃は前年度を上回る支給ができた。その他、就職合同説明会には4名の利用者が参加し、1名の利用者が就職に結びついた他、1名の就職支援を行った。

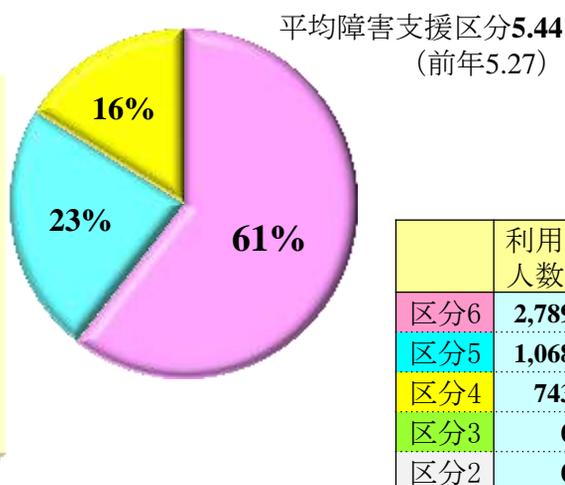
【日中一時事業】 ❖個々のニーズに合わせてのレスパイト支援として実施した。限られた時間の中で、それぞれに合った活動を提供した。

(1) 利用者の状況

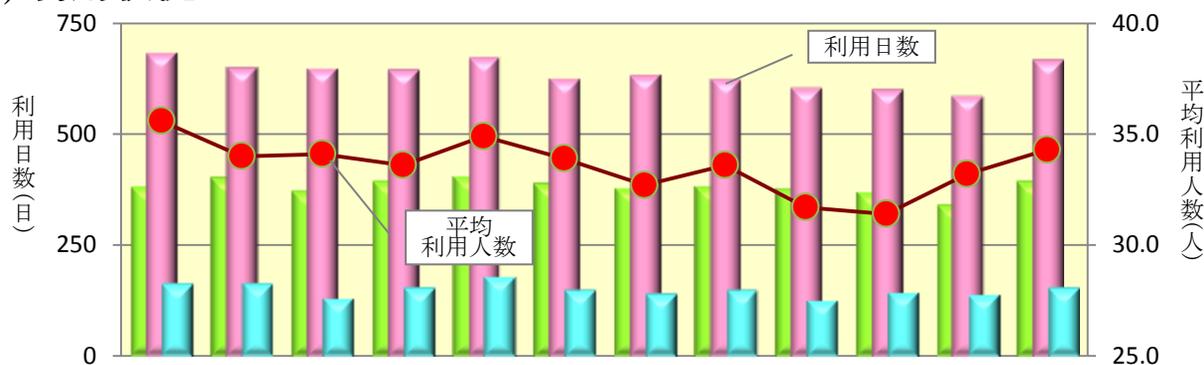
①地域別延べ利用者数



②生活介護利用者障害支援区分



(2) 利用状況



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年
生活介護	384	403	374	396	406	390	380	383	378	371	342	395	4,602	4,615
就労継続	685	651	650	647	675	627	635	626	606	602	588	670	7,662	8,270
合計	1,069	1,054	1,024	1,043	1,081	1,017	1,015	1,009	984	973	930	1,065	12,264	12,885
平均	35.6	34.0	34.1	33.6	34.9	33.9	32.7	33.6	31.7	31.4	33.2	34.3	33.6	35.2
営業日	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	366
日中一時	163	163	130	154	178	149	140	149	126	143	139	154	1,788	2,298

(3) 利用者工賃の支給状況

一般就労に向けての支援と、工賃額アップを目標に支援を行い、4月に37名の登録者で開始し、年度末には38名となった。就労継続支援B型の平均工賃は全体で月平均**13,054円**となり、前年より1,014円増額できた。

	H28	H27
プレアデス全体	13,054	12,040
ふくらん以外	7,221	7,026
ふくらん	24,055	24,858

平均工賃実績

(4) 相談支援事業

施設利用について**37件(前年28件)**の相談があり、28件で見学や体験利用を実施した。そのうち生活介護2名、就労B6名、GH3名が利用につながった。計画相談事業所のほか、精神病院、養護学校等からの相談であり、中でも精神病院に長期入院していた方が在宅に戻る為の地域移行支援の相談が多くなっている。

生活介護相談	3件
就労継続相談	12件
入所・GH相談	17件
その他	5件

(5) 日中活動

個別支援計画をもとに個々のニーズと能力に合わせた活動の提供を行った。生活介護では、日課として取り組める作業提供を整備した。また、季節に合わせた創作活動に取り組んだ。就労Bでは、外部講師を招いた利用者研修(テーマ:性について学ぶ)や自分発表会等、利用者主体の活動についてとても好評を得た。餅つき会やクリスマス会などは生活介護とし就労B型合同で行い、利用者間の交流を深めた。

(6) 施設外活動

神奈川県主催のスポーツ大会や「みんなのつどい」「西湘地区文化事業」等への参加、恒例となった会場を貸し切った家族も招いたバーベキュー、ディズニーへの一泊旅行(参加37名)などを行った。イベントでは家族の参加や協力も多く、利用者のみならず家族同士の交流の機会となった。



プレアデス一泊旅行(ディズニーランド)

(7) 地域交流

恒例のプレアデス祭は盛大に開催することができた。

ふくらん出張販売にお声掛けをいただいた地域のお祭りやイベントには積極的に参加し地域との交流を深めた。

南足柄市観光協会からの依頼で、8月の金太郎祭りのお水送りに福泉の駐車場を開放した。

ふくらんでの「買い物学習と地域福祉について」の題目で、南足柄小学校2年生90名を受入れた。



プレアデス祭では300名を超える方々にぎわった。

8. プレアデスホーム（共同生活援助定員36名）

3名（男性2名、女性1名）が体験利用を経て契約に至り、2名が生活拠点を自宅等に移し退所した。定員36名に対し**27名**（前年26名）となった。行事や外出などは各ユニット単位の少人数で実施した。ホーム担当職員を中心に一般就労や他福祉事業所を利用している方へのフォローアップや通院・行政手続きの支援を行った。毎月各棟ごとに世話人会議を開催し、利用者の生活を把握する事により、個別に対応が行えるよう取り組んだ。

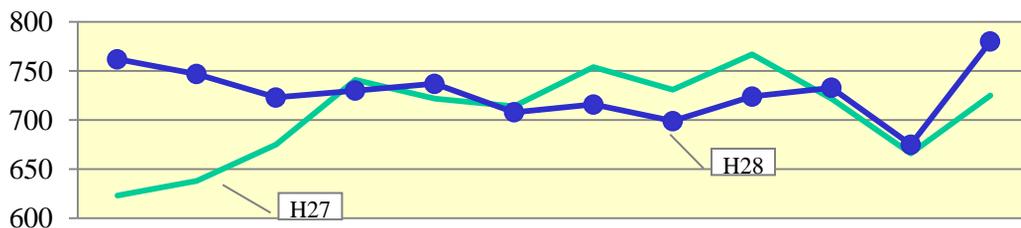
A.入所者の性別及び人数



B.障害支援区分

区分	あまつぼ			いずみ			やまさき			計	1	2	3	4	5	6	7
	男	女	計	男	女	計	男	女	計								
6	1	2	3				1		1	4							
5				1		1	1		1	2							
4		1	1				2	2	4	5							
3	1		1	1		1	4	1	5	7							
2				1		1	4	1	5	6							
1	1		1				2		2	3							

C.月別利用人数実績



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用日数	762	747	723	730	737	708	716	699	724	733	675	780	8734
入院日数	30	50	62	62	31	54	62	60	45	31	0	0	487
外泊日数	24	40	24	28	39	25	28	21	37	44	27	24	361
前年	623	638	675	741	722	714	754	731	767	722	666	725	8478

余暇活動として、ホーム単位で定期的に外出に出かけ、利用者同士の交流を深めている。また、2月4日から1泊2日で、毎年恒例の**県西地区グループホーム交流会**が、伊東市サンハトヤホテルで開催され、プレアデスホームからは13名が参加し、他法人のグループホーム利用者との交流をはかった。



一泊旅行

9.ふくらん販売状況

(1) 販売状況

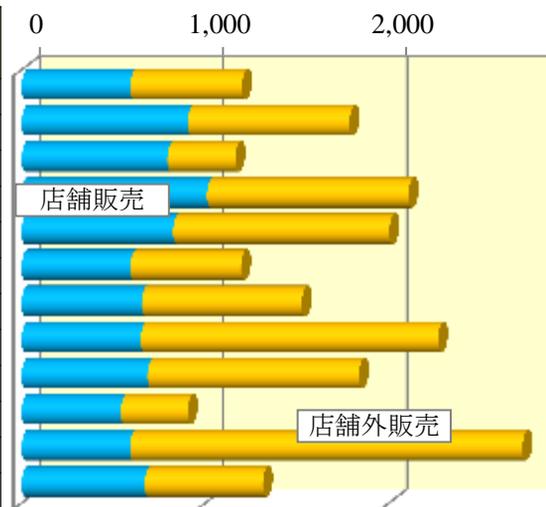
店舗においては、新商品の投入や月ごとに変わり種のシュークリームの販売を行い、売上確保に努めたが前年の売り上げを上回ることはできなかった。

外販では小田原短期大学、第一生命等新たな定期的販売場所を確保するとともに、大型店の出店やイベント等への積極参加で、前年を上回る売り上げを確保できた。定期的な納品先として、小田原百貨店(大雄山店、南足柄店)等が加わり安定した収入に結び付いた。また、かながわ西湘農協から、クッキーセット1500個の大口注文をいただいた。

季節毎に店舗を飾る作品作りを行うなど、利用者の仕事に対する意欲を高める支援を展開し、1日の利用平均は6.9名(前年6.6名)となった。平均工賃は、24,055円(前年24,858円)であった。

◆月別販売実績(単位:千円)

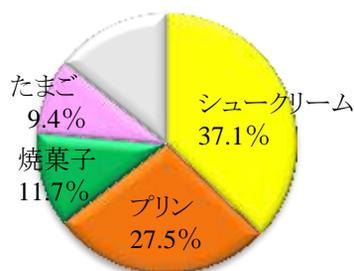
	店舗	店舗外			売上 合計	前年 売上
		小計	外販	受注等		
4月	592	608	254	355	1,200	1,239
5月	905	880	772	108	1,785	1,468
6月	794	370	294	76	1,164	1,749
7月	1,009	1,097	936	162	2,106	2,101
8月	825	1,177	971	207	2,003	1,340
9月	592	603	360	243	1,195	1,193
10月	654	872	694	178	1,526	2,141
11月	649	1,617	1,113	504	2,266	1,982
12月	686	1,151	716	434	1,836	1,365
1月	540	364	123	241	904	1,102
2月	590	2,137	333	1,804	2,727	1,269
3月	670	643	415	229	1,313	1,735
合計	8,506	11,520	6,979	4,540	20,026	18,684



◆店舗部門別販売実績(レジ集計値)(単位:千円)

部門	売上	構成比	販売数	前年売上
シュー	3,278	37.12%	18,667	3,566
プリン	2,430	27.51%	13,219	2,838
焼菓子	1,036	11.73%	4,976	1,041
たまご	826	9.36%	3,696	713
その他	1,261	14.28%		1,371

※レジ集計値なので、現金売上金額とは若干異なる



(2) 取り組み

小田原短期大学食物栄養学科と連携し、第2回「たまごスイーツコンテスト」を開催した。24企画のエントリーの中から1次審査を通過した入賞作品7つに対し、7月21日のコンテストで5分間のプレゼンテーションと試食審査で最優秀賞が決定した!!

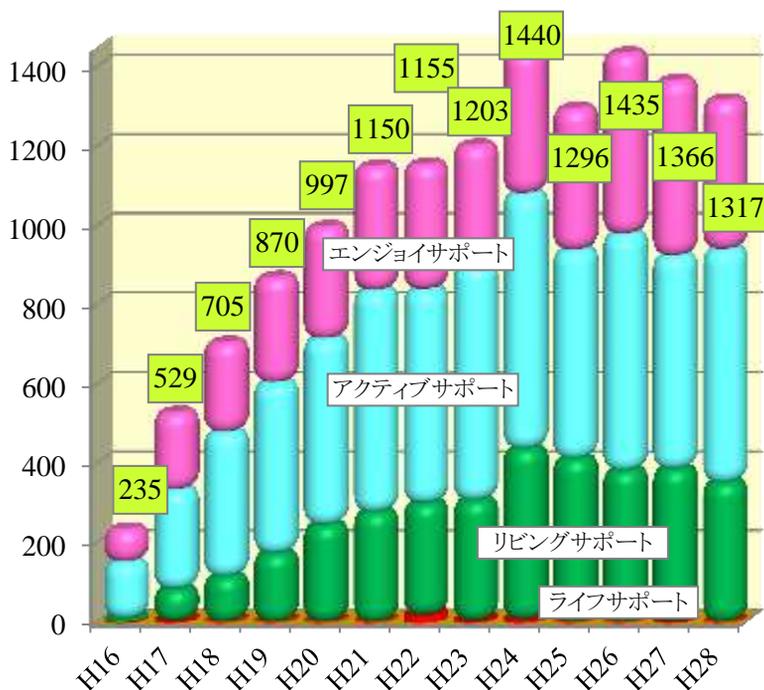
〔審査委員長;小田原商工会議所鈴木会頭〕



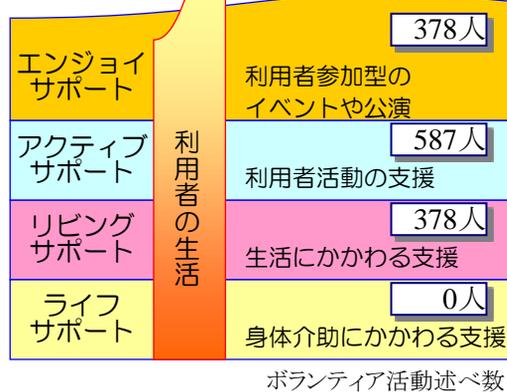
10. ボランティア活動の状況

(1) ボランティア実績

年間ボランティア数の目標を1,500名とし取り組んだが、**1,317名**（前年1,366名）の活動誘致にとどまった。学校に対して電話で依頼するなど積極的に誘致活動を行ったものの、学生の活動は**62名**（前年126名）に留まった。クラブ活動については、地元の**いずみ地域福祉会**の献身的な取り組みで**409名**のボランティア活動を得て、日中活動の充実がはかられた。プレアデスにおいては**500名**の目標を掲げ、**254名**を受入れた。



利用者の生活面から、ボランティアの活動を四つの階層に区分し、それぞれの階層ごとにボランティアの活動を誘致している。



(2) ボランティアイベント開催状況 **54回1,483名**（前年47回1,546名）が参加・鑑賞した。

催事	参加	様子	催事	参加	様子	催事	参加	様子
ピアノ&ドラム ピクルス	191名 /6回		車いすダンス 矢車草の会	188名 /5回		絵本タイム とんちゃん	120名 /9回	
おはなし 青い鳥	108名 /4回		ハワイアン カマカハワイアンズ	92名 /2回		手話ダンス 大井高校	73名 /2回	
小田原 奇術クラブ	68名 /2回		アニマル セラピー	67名 /2回		大正琴 華音	57名 /2回	

(3) ボランティア食事会

日ごろのボランティア活動に感謝し、5月26日にボランティアの方々をお招きし、職員との懇親を兼ね食事会を開催した。**43名**の方が参加した。



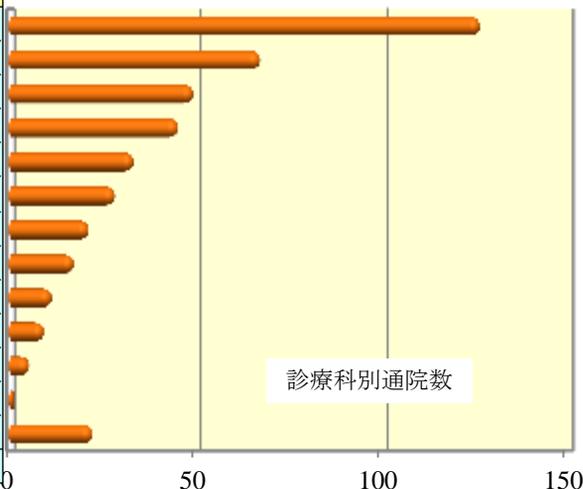
11. 健康管理の状況

(1) メディカル

口腔ケアの自立度が低下し、う歯が増え歯科受診が増加傾向にある。通院数は年間434件(前年408件)、入院日数は実数21名延べ30名595日(前年629日)であった。

通院/入院実績

	通院			入院		
	人数	延人数	H27	延人数	日数	H27
歯科	25	126	77			
内科	19	70	96	5	54	168
精神科	7	49	24	7	148	15
脳神経外科	11	45	18	1	8	2
神経内科	10	33	56	8	223	242
泌尿器科	5	28	45	2	11	17
整形・形成	5	21	20			27
皮膚科	4	17	20			13
眼科	3	11				
外科	6	14	17			50
耳鼻咽喉科	3	5	12	1	22	
救急外来	1	1		6	129	95
その他	4	14	23			
合計		434	408		595	629



	対象者	件数
膀胱洗浄	3	263
摘便	6	215
義眼洗浄	1	101
褥瘡	3	194
経管栄養	4	1310
バルーン交換等	2	19
ストマケア	1	113
その他	吸引 / 皮膚科処置 / 胃瘻・膀胱瘻処置 / 眼科処置 / 採血	

入所者の日常的処置実績

(2) リハビリ (訓練等サービス)

※その他の入院は、救急外来64日/4名。

リハビリテーション実施計画書に基づき、個別リハビリテーションを行い、身体・認知機能の維持・向上をはかった。また、少人数のグループ訓練を併用し、応用的な能力の獲得の援助に取り組んだ。リハビリテーション実施計画書はアセスメントシートとの連動を実現した。

機能訓練等

訓練の必要性に応じ、理学療法士を中心として機能維持訓練を実施した。個別に自主訓練方法を提案し、身体機能への自己認識の向上を促した。また、身体機能に合わせた車いすなど補装具の調整提案をした。

12月に理学療法士1名が退職し、十分な機能訓練を実施できなかったが、3月末に採用することができた。

	利用人数	延べ数	事業別			
			H28	入所	県西	プレ
言語訓練	48	1,318	1,260	601	605	112
機能訓練	62	1,849	2,275	785	1,064	
作業訓練	33	60	96	36	24	
音楽療法	39	540	573	433	107	
グループセラピー	10	255	163	255		
合計	192	4,022	4,367	2,110	1,800	112
訪問マッサージ	22	2,112	1,895			

※訪問マッサージは、マッサージ業者と利用者個人の契約によるもの。
 ※作業療法士は、リエゾン笠間より来園していたが12月で退職となった。

言語訓練

必要に応じ摂食嚥下機能の評価を行い、訓練や食形態の調整等を行った。

高次脳機能・コミュニケーション能力の向上など目的別小グループ訓練を継続実施し効果を得た。

作業訓練 (月1回実施)

日常生活動作能力の維持向上を目指し、自主プログラムを中心に訓練プログラムの立案をした。(12月まで)

音楽療法 (月2回実施)

目的別に4種の小グループを構成し、音楽の特性を生かし各機能の向上を促した。

12. 給食の状況

(1) 食事提供実績

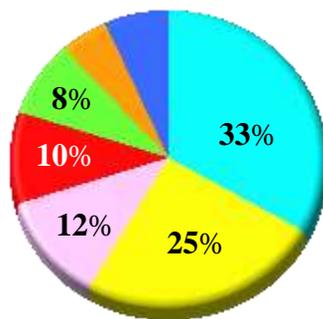
給食管理は、足柄療護園、プレアデスホームともに、栄養士業務も含めて日清医療食品(株)に業務委託している。プレアデスホームの厨房では、ホームの食事とプレアデス通所の昼食を提供し、足柄療護園も含めた合計食数は10万7千食であった。

	食数
朝食	30,961
昼食	45,302
夕食	31,109
合計	107,372
施設	59,580
短期入所	3,840
県西福祉C	9,715
プレアデス	11,006
ホーム	17,991
職員他	5,240

4月～3月 給食提供実績

① 食事の提供形態;常食は33%(前年37%)

② 栄養量



入所者の食事形態

	入所	県西
常食	20	69
一口大	15	10
1cm大	7	5
きざみ	6	3
超きざみ	5	6
ミキサー	3	4
経管栄養	4	2
合計	60	99

3.31現在

	足柄療護園	プレアデス
カロリー	1725 k _{カロ}	2026 k _{カロ}
たんぱく質	65.5 g _{ラム}	73.9 g _{ラム}
脂質	51.2 g _{ラム}	54.4 g _{ラム}
カルシウム	589m _{グラム}	611m _{グラム}
塩分	7.5 g _{ラム}	7.8 g _{ラム}

(カロリー制限食も含む)

③ 食事費用概算

給食費は、入所利用者より1日1,430円をいただいている。(短期・通所は朝400円・昼650円・夕食550円)

プレアデス対象の厨房の体制強化に伴い、委託料が増加し1日1,927円(食材費871円、委託費分1,056円)となった。

	平成28年度	平成27年度
業務委託費	37,778 千円	34,996 千円
食材費	33,767 千円	33,279 千円
1食当	314 円	307 円
1日当	871 円	850 円
給食費	71,545 千円	68,275 千円
1食当	666 円	630 円
1日当	1,927 円	1,890 円

※給食にかかわる光熱費は含まず。

(2) 食のイベント

誕生日メニューやちょっと贅沢を味わう「**ハッピーメニュー**」やイベントによる食事提供を行った。

4月8日	お花見弁当
5月5日	カツオたたき
6月15日	鮎ごはん
7月7日	七夕そうめん

8月28日	かき氷(おやつ)
9月15日	お月見献立
11月16日	手打ちそば
12月25日	クリスマス

1月1日	お正月
2月3日	恵方巻き
3月3日	ひなまつり

(3) 給食検討会

利用者参加もしている給食検討会を年4回開催した。会議には、調理師や委託業者の担当者も加わり、給食に対する要望の実現に向け検討を適切に行った。

給食検討会開催状況

開催日	参加者
5月18日	利用者 11名
7月20日	利用者 16名
10月25日	利用者 19名
1月18日	利用者 11名

(3) 食のあり方検討会

隔月で「食のあり方検討会」を開催しソフト食の推進について検討を重ねた。「食事観察依頼書」「食事観察経過評価用紙」を用いて、適切な食事形態の確保に他職種で取り組んだ。足柄療護園、県西福祉センターの利用者対象に食事に関するアンケートを実施した。

13. 権利擁護の状況

(1) 苦情の受付状況

右記2件の苦情があった。

●私の「担当者はなし」という職員の声が聞こえた。
⇒ 当該職員と面接を行ったが、発言について確認できませんでした。気にかかる言動がありましたらすぐにお申し出ください。
●職員2名が話を聴いてくれた後小さな声で「無視」と言っていた。
⇒ 当該職員2名と面接を行ったが、発言の確認は取れませんでした。気にかかる言動がありましたらすぐにお申し出ください。

(2) K-フレンズの活動

※K-フレンズ =かながわ身体障害福祉ネットワーク
(身体障害者自らが主となる権利擁護・苦情解決ネットワーク)

足柄療護園に毎月来園し、利用者から**33件**の相談を受け、施設への報告のもと適切に対処した。また、給食検討会への参加及び助言やボランティアの情報提供、利用者活動にかかわる情報交換を行った。

(3) KWネットの活動

※KWネット =県西地区障害者施設権利擁護ネットワーク
(県西地区で活動するオンブズマン組織)

年4回の相談日以外に施設行事に参加していただき、いつもとは違った環境で利用者の声に耳を傾けた。通所の利用者から自分が住んでるGHについての相談が増えた。

(4) 身体拘束ゼロに向けた取り組み

身体拘束マニュアルに沿って、ご本人ご家族と同意のうえ、実施している内容のうち、足柄療護園入所者**9名12項目**(前年7名12項目)、短期入所利用者7名11項目(前年11名14項目)、通所を含め**合計25項目**が身体拘束・行動制限に該当している。解除した方は7名であった。

拘束内容	目的	件数
ベッド柵	転落防止	6
センサー設置	外出防止	4
トイレテーブル	座位保持	3
トイレベルト	座位保持	1
胴体ベルト	転落防止	2
車いすベルト	転落防止	4
その他		5

身体拘束状況

(5) 成年後見制度利用の推進

足柄療護園入所者60名のうち、現在**18名**が制度を利用し2名が申請中である。プレアデスホーム利用者27名のうち後見制度利用は**10名**となり、社協の安心サービス利用は6名となり、金銭管理等の支援は半数を超えた。今後も家族に制度利用の必要性を説明していく。

(6) 人権チェック調査結果

12月に法人職員108名に対して、利用者支援にかかわり自らを省みる機会として、また利用者の人権を尊重するうえで必要な心構えを共通の認識とすることを目的に『人権チェック』調査を実施した。

平成27年度の調査結果と比較すると約半数の項目で評価が下がったものの、例年評価の低い『他の職員の利用者への対応について、問題があると感じたことがある』の項目では、評価が上がった。一方、同僚や上司と『コミュニケーションを取りやすい雰囲気である』の項目が評価が下がった。

評価の低かった項目

障害者差別禁止法を知っていますか？
職員側の価値観や都合で一方的・画一的な援助内容とならないようにしている。
上司とは、コミュニケーションがとりやすい雰囲気である。

昨年比べて評価の下がった項目

障害者差別禁止法を知っていますか？
同僚とは、コミュニケーションがとりやすい雰囲気である。
上司とは、コミュニケーションがとりやすい雰囲気である。

昨年比べて評価の上がった項目

他の職員の利用者への対応について、問題があると感じたことがある。
飲み会など施設外の場所で、利用者にかかわる話題を取り上げたことがある。
利用者の言葉遣いや歩き方などのマネをしたことがある。

14. 安全管理の状況

(1) 防 災

防災計画に基づき、避難訓練及び防火訓練を実施した。

月日	内 容	
6月15日	部分訓練	管理棟2階デイルームより、出火を想定した避難訓練模擬通報訓練、防災教育を行った。
9月21日	総合訓練	居住棟2階介護センターより出火を想定した避難訓練、直接消防署に連絡を入れる通報訓練、室内で模擬消火訓練を行った。
12月14日	総合訓練	管理棟2階デイルームより、出火を想定した避難訓練、模擬通報訓練、消火栓から放水する消火訓練実施。防災教育として、消防署員指導によるAEDの使い方講習を行った。
3月30日	部分訓練	居住棟1階娯楽室より、出荷を想定した避難訓練。模擬通報訓練を行った。

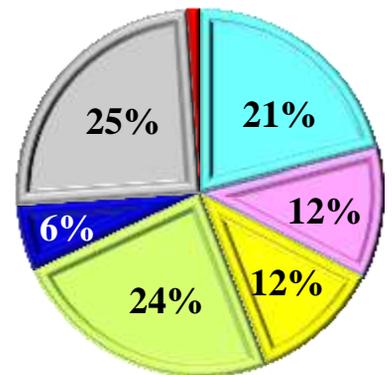
足柄療護園 避難訓練実施実績

(2) リスクマネジメント（事故報告）

リスクマネジメント報告書による**事故件数は449件**で前年の366件を大きく上回った。事業所別では入所が**323件**（前年248件）で、全体の**72%**を占める。内容別では、利用者行為が**24%**と多く、続いて転倒・転落が**21%**であった。服薬関係の割合は下がり**12%**（前年17%）となった。転倒・転落では、職員のかかわりがあるものが**15件**（**16%**）発生した。救急車による搬送を必要とした大きな事例（ライフガード）が**5件**（急変**4件**、転落**1件**）発生した。

その他が多くなっているが、内容は胃瘻トラブルなどの医療ケア関連が**41件**、物品の破損が**36件**などである。

4月～3月	転倒/ 転落	誤薬/ 服薬	裂傷/ 打撲	利用者 行為	車両 事故	その他 ※	ライフ ガード	合計 (%)
服薬時		12				6		18 4%
自由時間	47	5	15	57		25	2	151 33%
排泄時	15	1	6	4		20		46 10%
食事中		23	1	16		15		55 12%
歩行・移動中	7		1	10				18 4%
就寝時	7	1	1	1		5	1	16 4%
車椅子乗車時	7		1	1		1		10 2%
入浴時	2		10	2		5		19 4%
移乗中	2	2	2	1		6		13 3%
立位時	2			1				3 1%
その他	5	8	15	15	26	29	2	100 22%
合 計	94	52	52	108	26	112	5	449
(前年)	70	63	45	45	22	117	4	366



事故種別状況



※その他＝医療ケア関係41件、物品破損36件、 リスクマネジメント報告書内容

(3) インシデント(ヒヤリハット)

ヒヤッと共有書によるインシデントの件数は**1年間で330件**（前年211件）であった。

内訳では、自力による移乗などの利用者行為にかかわる内容が**125件**（前年72件）で最も多く、車いすからずり落ちそうになっていたなどの転倒/転落が**59件**（前年29件）、薬の飲み忘れなど服薬にかかわる内容は**56件**（前年46件）であった。

部署別では、足柄療護園が**240件**と7割を超える。

15. コミュニティ(地域交流)の状況

(1) 地域との交流

秋まつりでは、約80名のボランティアにご協力いただき、650名を超える方々で賑やかに開催することができた。プレアデスにおいては、プレアデス祭を福泉自治会の協力を得て開催した。



足柄療護園秋まつり

(2) 利用者講演

地域福祉への貢献活動として実施している活動は9年目を迎えた。人権擁護委員の研修会に招かれるなど、16回1,414名に対して講演を行い、累計聴講者数は5200名を超えた。

月 日	依頼元	対象者	参加者	利用者
5月23日	神奈川県立高浜高校	1年生	235	1
6月6日	神奈川県立高浜高校	2年生	235	1
6月21日	日本女子大学	社会福祉学科1年生	120	2
6月28日	真鶴町立真鶴中学校	中学1年～3年	200	3
7月14日	小田原短期大学	保育学科2年生	140	3
9月8日	神奈川県立大井高校	社会福祉援助技術2年生	13	2
11月1日	二宮西湘人権擁護委員	人権擁護委員研修会	50	3
11月30日	北里大学医療衛生学部	言語聴覚療法学専攻1年生	30	2
12月16日	リエゾン笠間	職員研修	30	2
2月13日	茅ヶ崎リハビリテーション	言語聴覚学科1年生	35	2

利用者講演実績

(3) 地域自治会との連携

『ふくらん』の出張販売を機会として、自治会のお祭りや文化祭など18の自治会(前年14)にお声掛けいただき、出店参加し、地域との交流をはかることができた。

また、足柄療護園、県西福祉センターでは「三竹」「沼田」、プレアデスでは「関本」の文化祭に利用者作品を出展させていただいた。



利用者講演
於神奈川県立高浜高校

16. 広報の状況

(1) 広報誌『やまぶき』の発行

広報委員会において広報誌「やまぶき」の発行を行った。利用者の活動や生活の様子を伝えることを主に年4回発行し、利用者・ご家族、地域自治会、関連業者、行政を含めた関連機関等へ約650部印刷し配布した。

通巻	発行日	主な内容
57号	4月30日	平成28年度事業計画 施設外対抗競技ニュース 他
58号	7月28日	平成27年度事業報告 足柄療護園新施設長挨拶 プレアデス祭報告 他
59号	11月30日	秋まつり特集 他
60号	1月30日	新年のあいさつ ボランティア特集 他

やまぶき発行実績

(2) ホームページ

足柄療護園のホームページは、定期的な活動を中心に更新を行った。ホームページへの掲載は利用者による説明の上、快諾いただき、利用者の活動を中心に適宜更新を心掛けた。また、県西福祉会、足柄療護園、県西福祉センターのフェイスブックページを作成した。

ふくらんについては専用のホームページの更新やフェイスブック(フェイスブックの“いいね!”は1,057)で、認知力向上につとめた。



17. 渉外関係(家族会・実習生/研修生等)他

(1) 実習生・研修生の受け入れ

足柄療護園では言語聴覚士の実習や大井高校の社会福祉援助技術履修生の介護体験の受け入れた。

プレアデスでは、小田原短期大学保育学科5名の実習を受け入れた。また、中学生の職場体験や小学生の地域学習の受け入れを行った。

	内容	依頼先	受入数	実習期間
足	ST実習	北里大学	1	8/1～9/10 (1ヶ月)
足	ST実習	大阪医専門学校	2	9/22～10/19 (20日)
足	介護体験	大井高等学校	15	11月10日
プ	保育実習	小田原短期大学	4	8/15～26
プ	地域学習	南足柄小学校	90	12月14日
プ	職場体験	泉中学校	3	12月1日
足	職場体験	南足柄中学校	6	2/1～2(2日)
セ	施設実習	小田原養護学校	3	延べ3日
プ	施設実習	小田原養護学校	8	延べ17日
プ	施設実習	星槎高校	1	延べ5日

実習受入実績

(2) 自治会(三竹会)活動

施設入所者自ら自治会を組織し活動を実施してきたが、平成22年度より役員選出が滞り、実質活動休止状態となっている。

(3) ご家族との交流等

足柄療護園全入所者のご家族を対象に足柄療護園家族会を組織している。会費納入者は**39家族**。5月と12月に家族会全体会を開催し、終了後、施設清掃にご協力いただいた。また、5月には**親睦パーティー**を開催し、職員・ご家族同士の親睦を深めた。秋まつりではバザー品の販売を行い売り上げは**131,470円**であった。(平成28年度会長:湯山淑子氏)

プレアデスでは、8月に家族をお招きし、夕日の滝でバーベキューを行った。また、ホーム利用者のご家族には12月の大掃除をお手伝いいただいた。



プレアデスBBQ



足柄療護園家族会懇親会

5月 29日	家族会総会 参加24家族29名	懇親会 施設清掃協力
10月 8日	秋まつり準備 役員等4家族6名	バザー品の 値付け
10月 16日	秋まつり協力 役員等4家族6名	秋まつり協賛 バザー販売等
12月 25日	家族会全体会 参加23家族27人	クリスマス会協賛 施設清掃協力
2月 18日	役員選出会議 役員等9家族10名	役員選出

足柄療護園家族会活動実績

(4) 施設見学

足柄療護園では、施設紹介や障害福祉啓発のため、施設見学の積極的な受入を実施した。埼玉県狭山市の社協、川崎市の父母の会、中央医療健康大学校理学療学科1年生など、計**8団体108名**の方が訪れた。施設見学の際には、時間的な都合が許されれば、**利用者の講話**や**利用者による施設案内**を行うなど、他の施設とは違った足柄療護園独自の取り組みを行った。



中央医療健康大学校
理学療学科1年生見学

平成28年度 部門別重点実施事項 実施報告

生活支援課	年度重点実施事項		実施結果
より意欲的に取り組める日中活動を構築する	本人の要望を確認し個別支援計画と連動したクラブ活動や個別活動への参加を実現する。ケース担当と日中活動担当との連携を強化する。	3	個別支援計画書と連動したクラブ活動への参加や大会を目標に支援を行った。また、作品作りなどの個別活動を日中活動担当者として連携し取り組んだ。
魅力的な就労支援サービスの確立			
その人らしさを引き出す役割支援の強化	施設外講演や施設案内など利用者が主役となる活動への企画・参加促進をおこなう。家族へのアプローチや協力により、その人らしい生活の実現につなげる。	3	利用者講演活動を積極的に行った。利用者主体での活動を実施することは出来なかったが、家族に協力を得た外出などを実施することができた。
個別支援の強化	各フロア4つのグループアプローチにより支援を強化する。/ケース会議と連動したアセスメント作成会議等を実施する。	4	グループ長中心の会議進行やアセスメント会議を確立した。グループ長同志が意見交換できる場を設置し、意見交換や支援に対するフォローアップなど、個別支援の具体的な実施へとつなげた。
組織・運営体制の強化	業務分担を見直し、リーダーがマネジメント力を発揮できるような、サブリーダー、担当職員等の業務を見直し、体制の見直しを実施する。	3	新たな組織体制となり、施設長や課長の業務内容の整理を行った。サブリーダーや担当職員の業務見直しは実施出来なかった。
成年後見制度利用促進と権利擁護意識の向上	ご家族等への説明会を実施する。また、後見制度の必要な方へのアプローチをおこなう。利用者に対する権利擁護意識の向上をおこなう。	3	家族に対する説明会は実施できなかったが、後見制度の必要な方へのアプローチを実施することで、制度利用へとつながった。
専門的知識の習得とマネジメント力の向上	中堅職員の役割を強化し、ケース支援のグループアプローチを通じたマネジメント力の向上をはかる。	4	個別支援にかかわり、グループとしての支援を強化することで、中堅職員の力の発揮できる体制づくりをすすめた。
就労支援事業の強化			
利用しやすい地域サービスの実現	継続的にミドルステイの確保を行い、利用日の調整などによる短期入所の年間短期稼働率90%を目指す。	5	家族等との利用調整を密に行い、短期入所稼働率99.9%を実現した。ミドルステイを効果的に活用し3名を確保することができた。
あらたな地域拠点拡充に向けた準備			
教育機関及び地域との連携強化	介護福祉士実習指導者講習会などに参加し、実習生の受入体制の強化をはかる。ボランティア、実習生、研修生の受入れをおこなう。	3	介護福祉士実習指導者講習会に参加し、今後、介護福祉士実習の受入が可能となった。地域の高校大学からのボランティア受入を行った。

地域福祉課	年度重点実施事項		実施結果
より意欲的に取り組める日中活動を構築する	月間行事・日中活動の強化。新たにグループでの外出支援をおこなう。	4	生活介護にて毎月、月間行事が定着してきた。外出については土曜日にフラワーガーデン、ブルックスや地域のイベントに参加し外出を行った。
魅力的な就労支援サービスの確立	作業の効率化や作業の安定化をすすめる工賃向上に努める。個々の能力に応じた作業の提供をする。	4	作業の効率化をすすめた。作業工程を細かく分け、個々の能力に応じて作業が行えるように提供した。
その人らしさを引き出す役割支援の強化	個々のニーズをモニタリングし、ニーズ・障害特性にそった支援を提供する。定期的なモニタリングを実施する。	4	定期的にモニタリングを行い、個々の新たなニーズや支援の見直しを行った。
個別支援の強化	サービス利用計画と連動した個別支援計画の作成とモニタリングの強化。他の相談事業所や関係機関との連携を強化する。	5	各相談事業所と連携をはかり、利用者ニーズにそった支援計画を行ってきた。モニタリングにおいては、新たなニーズを聞きとり良い支援につなげることができた。
組織・運営体制の強化	各事業の体制を強化し、特性を活かしたサービスを提供する。	4	生活介護、就労継続支援B型、機能訓練、各事業所の特色をいかしたサービス提供を行った。また、3事業の利用者交流も行った。
成年後見制度利用促進と権利擁護意識の向上	利用者・家族への成年後見制度の利用をすすめる。利用者接遇意識を高め人権意識の向上をはかる。	2	通所利用者の成年後見制度利用の促進には至らなかった。利用者接遇意識については会議等で人権意識の向上をはかった。
専門的知識の習得とマネジメント力の向上	研修に積極的に参加し専門知識・マネジメント力を強化する。中堅職員の役割を強化し支援員の能力向上をおこなう。	4	積極的に研修に参加できるよう調整を行い、参加した。それぞれの役割を明確にし、支援・活動につなげた。
就労支援事業の強化	安定的な作業量の確保ができるように取引先の開拓をおこなう。	4	新規取引先の開拓や、新たな作業の取り入れを積極的に行った。
利用しやすい地域サービスの実現	地域に情報発信しニーズにそったサービスを提供しより多くの利用者を受入れる。年間利用者延べ人数10300名を目指す。	4	相談事業所、病院を中心に情報を発信し新規利用者を受け入れた。年間延べ利用者数は目標には至らなかったが、10,142名と大幅増となった。
あらたな地域拠点拡充に向けた準備	地域のニーズにこたえ新たなサービスを模索する	2	新たなサービスを展開するまではいかなかった。
教育機関及び地域との連携強化	養護学校・特別支援級の体験実習受入れ。定期的な情報交換をおこなう。	4	小田原養護学校、体験実習を受け入れを行い、情報交換を行った。

平成28年度 部門別重点実施事項 実施報告

プレアデス	年度重点実施事項		実施結果
より意欲的に取り組める 日中活動を構築する	日中活動のカテゴリーを集団活動グループと個別対応グループに分け、利用者ごとに一番ストレスがなく日中を過せるプログラムを構築する。	5	生活介護では作業班、軽作業班、余暇活動班の大きく3つのグループ分け、作業場所、提供時間を工夫した事で日中利用者同士のトラブルは減少した。
魅力的な就労支援サービスの確立	一般就労を目指す利用者の方対象のグループプログラムを検討作成する。	4	就労を目指す方には、個別支援で日々の作業において言葉使いや態度等、就労を想定した指導を行い、仕事に対する意識づけをはかった。
その人らしさを引き出す役割支援の強化	出来るだけ利用者の方に司会や挨拶準備などを行って頂き、今までの参加型から共同型のイベントや活動を企画実施する。	4	イベントに利用者が役割を持って取り組んだ。自分発表会では、個々の思いをみんなの前で発表し、自信と達成感、利用者同士の一体感が生まれた。
個別支援の強化	個別支援計画の経過記録用紙を新規に作成する事で、支援業況の把握と支援員の支援に対する情報の共有をおこなう。	5	新たに個別支援計画用の経過用紙を作成し活用を開始した。これにより、支援毎の進行状況把握が容易になり、計画的な支援につながった。
組織・運営体制の強化	業務書類の見直しを行い、書類の統一と削減をはかり業務の効率化をはかる。	4	書類の見直しを行い、重複した内容記載は統一できるよう変更し、また毎回記入する文言については定型文として書類に予め印字するなど業務時間短縮をはかった。
成年後見制度利用促進と権利擁護意識の向上	後見制度と社協の安心サービスの利用率をGHでは全体の50%、日中支援では全体の30%を目標に利用者や家族へ勉強会等を定期的実施する。	4	GHでは後見制度利用が新たに2名増え、社協の安心サービス利用の6名と合わせ16名の利用となり目標に達した。日中支援では3名の方が新たに制度を利用開始し、現在11名の制度利用となった。
専門的知識の習得とマネジメント力の向上	様々な研修技法を用いながら、小グループでの研修を企画実施することで、必要なスキルを身につける。	4	回数は少なかったが、個別支援計画のポイントや職員が気になった障害内容について勉強会を実施し、個々のスキルアップに努めた。
就労支援事業の強化	作業品目を見直すとともに取引先の開拓をおこなう。ふくらん事業の強化に注力し利用者の大幅増をはかる。	4	新たに2カ所からの取引を開始し、作業を中断することなく提供できるようになった。ふくらんについては大幅な利用者拡大には至らなかった。
利用しやすい地域サービスの実現	始めのの利用に対し、解り易い説明とアドバイスにより、相談⇒体験⇒利用までの工程を短縮する。年間13600名の受入れの実現。	3	体験希望の約半数が精神障害の方で、説明について通常より多くの時間をかけ、新規4名の精神障害の方の利用が開始した。年間利用目標は達成できなかった。
あらたな地域拠点拡充に向けた準備	高次脳機能障害の方の医療機関退院後から在宅生活、再就職までの利用方法定着に向けた検証をおこなう。	4	高次脳機能障害や精神障害の方が安定した地域移行と長期利用に結び付けられる様に地域の医療機関と連携をはかり、体験を多く受け入れた。
教育機関及び地域との連携強化	実習生の受入れを増やし、1.5倍増を目指すとともに、小中学校の地域体験学習への受入れ拡大をはかる。	5	今年は6カ所の教育機関からの実習や体験の受入れを行った。特に小中学校からの受け入れについては昨年に大幅に上回った。

プレアデスホーム	年度重点実施事項		実施結果
より意欲的に取り組める 日中活動を構築する	活動希望など、利用者の意向も取り入れながら外出や行事などを整理、検討をおこない、グループホームでの余暇支援の充実に努める。	4	個別外出では、移動支援を利用した外出を行えるように支援した。また、休日の過ごし方も個々に整理するなど、ホームでの過ごし方を本人と組み立てた。
魅力的な就労支援サービスの確立	就労に結びつくような個々の能力を引出す。また、就労している方には定着できるように生活をサポートする。	4	就労に結びつくよう見学・体験を行った。また一般就労している方へは就労定着できるように企業との密な連携を取り、就労意欲を維持できるように支援した。
その人らしさを引き出す役割支援の強化	本人の思いを実現するために、ご家族関係者と連携し、向かうべき目標を本人と一緒に検討する。	5	ホームでの生活だけでなく、交友関係、職場関係など、本人の悩み、思いを聞き取れるよう、利用者、家族、関係機関等との関わりを密に行なった。
個別支援の強化	各関係機関と連携し、本人が望む生活、就労、余暇などを送れるよう、必要に応じて本人を含めたカンファレンスをおこなう。	4	言動や表情などを日々観察し、生活面、就労面、交友面などについて悩み等を伝えやすい環境作りを心掛けた。状況により各関係機関を交えカンファレンスを実施した。
組織・運営体制の強化	生活支援員、世話人業務の確立を行い、業務マニュアルを作成する。 必要に応じて専従職員の配置をおこなう。	3	業務マニュアル作成には至らなかったが、世話人会議において、利用者への対応、業務の統一を検討してきた。GH専従職員の配置にむけて役割等を検討し準備した。
成年後見制度利用促進と権利擁護意識の向上	KWネットを活用し、利用者対応等を振り返る。また、成年後見人制度利用について、ご家族関係者に重要性を説明する。	4	権利擁護にかかわり、金銭管理などについては、南社協の安心センターや後見人制度の利用促進をはかった。新規利用者も含め、本人、家族、関係者に啓発し、複数の利用に至った。
専門的知識の習得とマネジメント力の向上	世話人を対象に、利用者の障害特性を学習するなど、世話人向けの研修を企画・開催し、基礎的な知識と支援力の向上をはかる。	4	世話人会議を通じて、日々の世話人業務の悩みや利用者対応などを相談しあいながら、対応の仕方や利用者観察の視点などを共有することができた。
就労支援事業の強化			
利用しやすい地域サービスの実現	新たなグループホーム拠点を軸に地域と密着し、暮らしやすい生活環境作りを実現する。	5	空いている居室を利用し、体験利用を年間延べ14名60日受入れ、3名が利用を開始した。体験時に暮らし方を組み立て日課を検討し、日々実践し評価を行った。
あらたな地域拠点拡充に向けた準備	やまさきホームを中心にグループホーム事業の運営安定化をはかり、今後の展開につなげる。	5	GH担当職員を中心に、利用者個々の余暇支援、通院同行、行政機関との連携を行い、利用者増に向け、運営の安定化をはかった。
教育機関及び地域との連携強化	教育機関、養護学校の体験実習や地域のボランティアなどと連携し、積極的な受入れをおこなう。	4	地域自治会や福祉会を通じて、イベント等に参加し、模擬店出店の手伝い等に加わった。また、近隣住民等との挨拶や会話を心掛け、GHの存在を深めた。

平成28年 事業報告

